

芦別白光舎 平成 30 年度 事業報告書

1. 総括

障害の有無等に制限のない社会事業授産施設として、就職の困難な利用者の受入れに取り組み、その役割を果たすため福祉事務所との連携を強化し、保護世帯利用者の受入れ、利用障害者の支援に努めてまいりました。

また、就労支援 B 型基準該当施設として利用者の受入れにも取り組んでおり、3 月末の利用者は 10 名で、事業授産利用者 33 名と合わせて合計 43 名が就労しています。

「働く・暮す」の支援の充実のため、福祉施策と労働施策の両面にわたり積極的に取り組み、高工賃の支給、個人の体力等に合わせた就労日・時間を設定し、環境作りを整備してまいりました。

作業の安定化、作業効率の向上については、リネンサプライ、ユニホームクリーニングが良好な成果を出していますが、そのために工場スペースが狭隘となっているため、安価な海上コンテナを 4 台購入し、資材置き場等の確保に努めました。また、中古機ではありますが、新たに全自動水洗機 2 台とシーツローラー 1 基、乾燥機 1 台を設置し作業の効率化を図りました。集配車両については、リネンサプライ、ユニホーム業務の増加により、中古車両を 2 台購入して対応し、外務員車両も 1 台更新いたしました。さらにホーム工場においても、全自動包装機を更新し、作業の軽減と効率化を図りました。

サービスの安定提供につきましては、授産事業作業量の確保のため、リネン、ユニホーム業務を拡大したことにより、安定した工賃支給につなげることが出来ました。また、利用者のニーズに応えるため個別面談を実施し、利用者の安心・安全な生活の実現に向けて、生活指導、家庭訪問等も随時必要に応じて実施いたしました。

具体的な運営状況は以下のとおりです。

2. 施設利用者状況(平成 30 年 3 月 31 日現在)

区 分	定員	利用種別	人数	備 考
事業授産	30 人	低所得者	24 人	定員 3 人増・33 人
		保護世帯	9 人	
		うち (知的障害)	6 人	
		(身体障害)	3 人	
		(精神疾患)	5 人	
		(ひとり親)	4 人	
		(その他)	15 人	

就労継続 B型支援 (基準該当)	10人	うち(知的障害) (身体障害) (精神疾患)	8人 1人 1人	
合計	40人		43人	

3. 経営状況

授産事業につきましては、人口減によるホームクリーニング部門の売上減が懸念されるなか、ユニホーム、リネンサプライ関係が好調で新規顧客も増えており、順調に売上を伸ばすことができました。また、ベアリング部門については、利用者の減員等により売上減となりましたが、全体的には前年度対比 1,022 千円の増と売上を伸ばすことができました。

さらに、措置費収入は利用者増と基準額の改定により 1,040 千円の増収となりましたが、自立支援費は報酬単価の改定により、2,400 千円の大幅な減額となり、全体では、337 千円の減額で、収入合計金額は 176,155 千円となり、昨年とほぼ同額となりました。

一方、経費に於いては資材の購入、重油単価の高騰により 9,209 千円の増額となりましたが、経費合計は 174,418 千円で 1,736 千円の収支差額を出すことが出来ました。

また、本部会計より 3,500 千円の繰り入れを行い、老朽化したクリーニング機器の計画的な更新、さらには緊急時に備えるために 5,000 千円の積立を実施いたしました。

収益事業につきましては、生きがいディサービスセンターの閉鎖により、清掃部門が 3,230 千円の減収となりましたが、経費に於いて租税公課の減額により収支差額は前年度対比 2,468 千円の 5,402 千円で、雑収入と合わせて 4,600 千円を本部会計に繰り入れいたしました。

売店部門は顧客の減少により、病院売店が前年度対比マイナス 696 千円、市役所売店がマイナス 1,217 千円の減額となりました。合計売上は 1,914 千円減額の 25,585 千円でしたが、費用については租税公課の関係で増額されており、収支差額は雑収益と合わせてマイナス 1,273 千円となりました。来年度からは租税公課の適正な案分を行い、安定的な運営に努めます。

結果、授産事業、収益事業、共に概ね運営は順調です。

4. 各種事業活動結果

年・月・日	事業活動内容	摘要
	【諸会議の開催】	
随時	理事会の開催	年間6回
随時	評議員会の開催	年間3回
毎月	職員会議の開催	
毎日	職員ミーティング	
	【監査】	
定期	巡回監査(さくら総合会計事務所)	年間6回
定期	監事監査	年間4回
定期	運営指導(空知総合振興局・書面監査)	
	【親睦事業】	
5月18日	観桜会	白友会
6月6日	焼肉会	職員・利用者
9月2日	ふれあい広場	自由参加
9月14日	焼肉会(うしだや)	職員・利用者
12月1日	勤労者共済会クリスマスパーティ	自由参加
12月7日	忘年会	白友会
1月26日	新年会	白光舎・白友会
2月5日	雑煮会	職員・利用者
	【健康管理事業】	
随時	第1回 健康診断	基準該当利用者
1月22日	第2回 健康診断	職員・利用者
	【避難訓練】	
10月11日	自然災害総合訓練(通報・避難・消火・救助)	職員・利用者
	【福祉サービス事業】	
随時	三者面談	
随時	個人面談	
随時	家庭訪問	
	【研修・出張】	
4月5日	会計・労務セミナー	日帰り(2名)
4月19日	実務者決算・財務分析講座	日帰り
4月20日	生保・社会事業部会幹事会	1泊2日
5月8日	水質汚濁防止法の届け出関係打合せ	日帰り(2名)
6月13日	危険物保安講習会	日帰り
6月22日	社会福祉会計セミナー	日帰り
6月27日	社会就労センター施設長・職員研修会	1泊2日

6月28日	衛生推進者養成講習	2泊3日
7月12日	全国社会就労センター総合研究大会	1泊2日(2名)
7月19日	新任総務経理研修会	1泊2日
7月30日	総務担当者専門研修	日帰り
9月5日	社会福祉施設ブロック研修会	日帰り
9月13日	海上コンテナ視察	日帰り
9月14日	社会福祉法人会計セミナー	日帰り
9月21日	リースキン代理店会議	1泊2日
9月27日	役員研修会	1泊2日(6名)
	北海道社会就労センター協議会研修会	1泊2日
10月3日	労務・税務セミナー	日帰り
10月24日	相談支援員専門研修	1泊2日(2名)
10月30日	芦別市防火安全協会視察研修	日帰り
	北海道サービス管理責任者研修	2泊3日
11月20日	立体自動包装機(現物確認)	日帰り
11月26日	民間社会福祉事業職員共済会業務説明会	日帰り
12月18日	生活困窮者安心サポート事業説明会	日帰り
1月31日	配送用トラック引き取り	2泊3日
2月13日	地域公益活動普及・啓発セミナー	日帰り
2月14日	社会福祉法人経営実務セミナー	日帰り
2月15日	身体障害者福祉施設セミナー	日帰り
2月21日	社会福祉会計セミナー	日帰り
2月22日	消費税改正セミナー	日帰り
3月5日	北海道社会就労センター研修会及び総会	1泊2日
3月7日	社会福祉主事スクーリング	5泊6日

注記 平成30年度事業報告には、社会福祉法施行規則第2条の25第3項に規定する付属明細書の「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成していません。

ケアハウスあしべつ

平成30年度事業報告

1 総括

ケアハウスあしべつの運営を開始してから13年が経過しました。芦別市の高齢化社会の進行により、介護を必要とする方や独居に不安を抱える高齢者が増大している中であって、当施設は、その現状を踏まえて市民のニーズに応じていくとともに、入居者の心身レベルの低下傾向に配慮して、特定施設入居者生活介護及び介護予防特定施設入居者生活介護の対象となる定員30人と一般入居者定員20人の合計50人定員で運営し、高齢者福祉の受け皿施設としての使命・役割を認識し、入居希望者及び入居者への高齢者福祉サービスの充実向上に努めたところであります。

加えて、当施設の基本理念「私たちは、入居者様一人ひとりを敬愛し、笑顔、思いやり、親切、丁寧、誠実、公平の姿勢で取り組み、信頼される施設を目指します」を定め、この基本理念に沿って、入居されている方々や家族が安心できる施設づくりを目指し、入居者一人ひとりのライフスタイルを尊重し、健康で安全なゆとりある生活ができるよう、個々のニーズに沿った良質なサービスの提供に努めたところであります。

また一方で、平成27年度に国の第6期介護保険事業計画による介護保険制度改正が行われたことによる介護報酬単価引下げの影響を引きずり、当施設

の経営収支の不透明感を払しょくすることができないことから、平成 30 年度も引き続き事業活動収入増の模索及び事業活動経費支出の節減のほか、職員給料月額(賃金日額を含む。)の 5 パーセントカットを実施し、健全経営の構築に取り組んだところであります。

具体的な施設運営状況は、以下のとおりです。

2 施設入居者状況 (平成 31 年 3 月 31 日現在)

区 分	定員	入居者数	男性	女性	要介護度別	摘 要
特定施設及び介護予防 特定施設入居者生活介護	30 人	30 人	4 人	26 人	要支援 1…1 人 要支援 2…3 人 要介護 1…15 人 要介護 2…10 人 要介護 3…1 人 要介護 4…0 人 要介護 5…0 人	平成 30 年度退居者…3 人 平成 30 年度入居者…5 人
ケアハウス一般入居者	20 人	19 人	5 人	14 人		平成 30 年度退居者…3 人 平成 30 年度入居者…4 人
計	50 人	49 人	9 人	40 人		

※ 待機状況 (平成 31 年 3 月 31 日現在)

区 分	男 性	女 性	合 計
特定施設入居希望者	3 人	7 人	10 人
一般入居希望者	2 人	9 人	11 人
合 計	5 人	16 人	21 人

3 経営状況

平成 30 年度決算につきまして、まず収入においては、ケアハウス一般の対象となる定員 20 人並びに特定施設入居者生活介護及び介護予防特定施設入

居者生活介護の対象となる定員 30 人で運営してまいりましたが、昨年のような入居者の死亡・自主退去が減少して入居者が定着したこととともに、入居者レベルの低下による要介護度の変動増に伴い、前年度より介護サービス利用稼働率（2.39 ポイント増の 93.54%）が上昇したことによる介護保険収入が増加（対前年比 1,452 千円増）し、同様に入居者稼働率（2.28 ポイント増の 95.13%）が上昇したことによる老人福祉事業収入の増加（対前年比 2,635 千円増）があり、一方で、積立金取崩収入の減少（対前年比 1,258 千円減）があったところであります。（収入合計 138,643 千円・対前年比 2,925 千円増）

支出においては、経費支出の節減に努めたところでありますが、固定資産取得支出減（対前年比 2,141 千円減）の減少があった一方で、職員給料月額・準職員賃金日額の 5 パーセントカットを実行したものの、職員定着に伴う職員給与費増による人件費増（対前年比 1,081 千円増）、原油価格高騰による燃料費増（対前年比 528 千円増）、最低賃金改定に伴う委託料増（対前年比 787 千円増）及び積立資産支出増（対前年比 2,000 千円増）などの増加がありました。（支出合計 136,029 千円・対前年比 2,175 千円増）

その結果として、平成 30 年度決算は、当期資金収支差額としては、前年度対比で増収・増益による 2,615 千円（対前年比 750 千円増）が生じ、当期末支払資金残高は 29,028 千円（前期末支払資金残高 26,413 千円）になったところであります。

なお、単年度決算としては、当期資金収支差額 2,615 千円の黒字であり、

積立金が前年度より 2,000 千円増加し、4,500 千円を積み立てられたことは、
一定の成果を得ることができたと考えております。

詳しい内容は、別記決算書のとおりであります。

4 各種事業活動等結果

年・月・日	事業活動等内容	摘要
	(事業活動)	
毎日	・介護支援(食事・清掃・入浴・排泄・通院・買物等)	看護職員・介護職員対応
随時	・介護計画(ケアプラン)の作成及び家族等への周知	介護支援専門員対応
随時	・相談支援(心身・日常生活上の相談に対する適切な対応)	生活相談員対応
毎日	・給食(安心かつ安全な食事の提供)	栄養士対応
定期	・機能訓練(身体機能維持向上の運動)	機能訓練指導員対応
定期	・健康管理(毎週1回の身体測定及び年1回の健康診断・散歩)	全入居者対象
定期	・火災避難訓練(総合訓練)の実施	春と秋の2回実施
随時	・入居者近況報告(介護状況・日常生活状況の家族等への報告及び広報誌「さくら」の送付)	入居者家族等へ送付
4月～10月	・花畑作り(希望者に1区画(2.3㎡)ずつ与え、花や野菜作りをして自立心を養った。)	ケアハウス敷地20区画
	(各種会議)	
随時	・運営懇談会(入居者からの要望聴取及び施設側の注意事項伝達)	11回開催
毎月	・管理運営会議(主任以上で施設経営・業務運営に関する検討・協議)	12回開催
随時	・定例会議(職員全員が情報交換・情報共有を密にし、効率的な施設運営の検討)	12回開催
毎月	・サービス担当者会議(介護支援ケース検討)	34件21回開催
毎月	・ステーション会議(入居者全般へのサービス業務運営の検討)	7回開催
毎月	・レクリエーション担当者会議(毎年実施のレクリエーション内容の企画・検証)	12回開催
毎月	・行事担当者会議(年間イベント行事内容の企画・検証)	12回開催
	(各種委員会)	
毎月	・給食委員会(安心安全な食事提供への検証)	11回開催
毎月	・リスクマネジメント委員会(ヒヤリハット・事故報告検証)	12回開催
毎月	・身体拘束廃止委員会(身体拘束及び解除決定の審議)	12回開催
毎月	・感染症対策委員会(ノロウイルス・インフルエンザ等の感染症予防対策検討)	12回開催
随時	・防災対策委員会(災害予防及び災害応急対策の総合的な検討)	2回開催
随時	・業務改善委員会(入居者サービス向上を図るための業務処理能率化の検討)	2回開催
	(各種行事)	
毎月最終木曜日	・お誕生会	地域交流ホール
4月19日	・ケアハウスあしべつ開設記念茶話会(コーヒー・紅茶・煎茶・ケーキ)	地域交流ホール
6月5日	・防災講習会(防災訓練内容説明及び防災知識の普及)	正面玄関前広場
7月7日	・ジーンギスカンパーティー(入居者・職員42人、家族18人、町内会4人参加)	地域交流ホール
6月5日	・防災講習会(防災訓練内容説明及び防災知識の普及)	地域交流ホール

年・月・日	事業活動等内容	摘要
7月24日 8月10日 9月～10月 9月27日 10月11日 10月26日 11月15日 12月21日 12月21日 1月24日 1月31日 2月28日 随時	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者健康診断 ・納涼流しそうめん（そうめん・ミニトマト・きゅうり）及び助六寿司 ・ほんだケーキ飲食会(22人参加) ・敬老会 ・軽運動会(ペットボトルボウリング、おやつをゲットだぜ、輪っかリレー等) ・防災講習会(災害避難訓練内容説明及び防災知識の普及) ・婦人服・紳士服等販売会(キャンデイ～札幌店) ・パラリンピック正式競技「ボッチャ」実技体験会 ・クリスマスパーティー ・新年会(福引き) ・節分豆まき（無病息災、厄除け、家内安全を願って） ・ひなまつり(甘酒・ひなあられ等) ・おやつ会(フルーツあんみつ・じゃがバター・お汁粉) <p style="text-align: center;">(ボランティア団体等との交流)</p>	施設内 地域交流ホール ほんだケーキ屋 地域交流ホール 地域交流ホール 地域交流ホール 地域交流ホール 地域交流ホール 地域交流ホール 地域交流ホール 地域交流ホール 地域交流ホール
5月24日 9月27日 11月29日 12月22日 2月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・舞踊鑑賞 ・歌謡曲鑑賞（ひまわり姉妹） ・民謡鑑賞 ・ハーモニカ演奏鑑賞 ・ボランティア体験学習（小学生児童との交流） <p style="text-align: center;">(入居者間のふれあい交流)</p> <p>レクリエーションによるふれあい交流を通して、入居者の方々が明るく楽しい生活を送ることができた。</p> <p style="text-align: center;">＜レクリエーション内容＞</p> <p>カラオケ・五目並べ・オセロ・麻雀・百人一首・福笑い・将棋 ・トランプ・花札・いろはかるた・ひらがなビンゴ・書初め・きり紙はり絵・色鉛筆塗り絵・ステンドグラスはり絵・うちわ制作・雛人形作り・風船バレー・棒サッカー</p>	明友会一行(7人) 保坂八重子・重原美子様 秀晴会一行（7人） 伊藤義之様 芦小児童生徒15人・教諭1人

5 職員研修状況

関係機関が主催する次の研修会等に積極的に参加し、専門知識・技術の習得を通して、職員一人ひとりが柔軟かつ臨機応変に対応できる資質の向上に努めました。

対象職員	研修会名	摘要
看護職員	・災害看護の基本的知識研修会(札幌市)	1泊2日(1回)
介護職員	・リスクマネジメント研修(札幌市)	日帰り(1回)
	・アンガーマネジメント研修(札幌市)	日帰り(1回)
	・BPSD(行動心理症状一周辺症状)対応研修(札幌市)	日帰り(1回)
	・福祉専門職のためのキャリアアップ研修(札幌市)	1泊2日(1回)
	・メンタルヘルス研修(札幌市)	1泊2日(1回)
	・接遇講習会(旭川市)	日帰り(1回)
	・感染症予防対策研修会(滝川市)	日帰り(1回)
介護支援専門員	・北海道介護支援専門員更新前期研修(札幌市)	日帰り(1回)・1泊2日(2回)
	・北海道介護支援専門員更新後期研修(札幌市)	2泊3日(1回)
栄養士	・栄養士専門研修(札幌市)	日帰り(1回)
管理課長	・介護保険施設等集団指導(岩見沢市)	日帰り(1回)
	・虐待防止実践研修(札幌市)	日帰り(1回)
	・危険物保安講習(滝川市)	日帰り(1回)
施設長	・人事考課制度実践法セミナー(札幌市)	日帰り(1回)
職員全員対象	・感染症発生時対応研修会(内部研修)	3回
	・身体拘束廃止研修会(内部研修)	2回
	・防災研修会(内部研修)	2回

注記 平成30年度事業報告には、社会福祉法施行規則第2条の25第3項に規定する付属明細書の「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成していません。